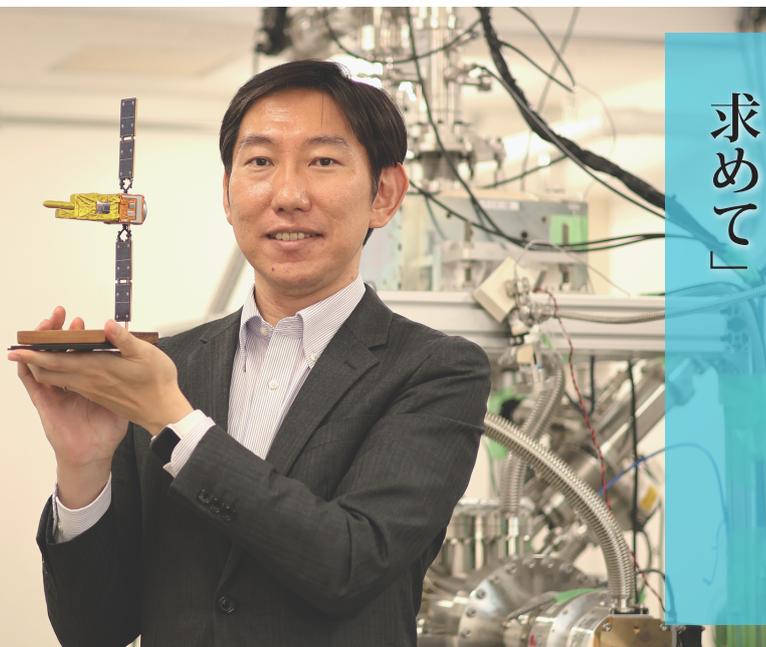


こんな先生
いるよ!

木村 智樹 先生

理学部第一部 物理学科 准教授



「地球外生命の存在を 求めて」

惑星—衛星系を生命環境として理解する

どのような研究をされていますか。

惑星や衛星の環境について研究し、地球外生命の存在の可能性を探っています。人工衛星や惑星探査機で、惑星周辺の宇宙（オーロラ、磁気圏）や水衛星の表層・内部の物理過程を研究してきました。研究室では観測した状況を再現し、生命の起源となり得る物質が生成されるかなどの室内実験も行います。国内外の惑星探査機や宇宙望遠鏡のミッションにも参加しています。

2015年には、開発と運用に参加してきたJAXAの惑星分光観測衛星「ひさき」（世界初の惑星専用宇宙望遠鏡）による木星の長時間連続観測でオーロラ爆発を捉え、この現象が木星自身の高速自転によって引き起こされることを示しました。

宇宙飛行士の活躍を見て興味を抱く

研究者を志したきっかけは。

小学生の頃、「学研の科学」や「Newton」などの科学雑誌が好きでした。中でも宇宙分野に興味を持つきっかけになったのは、当時、向井千秋さん（現・東京理科大特任副学長）や毛利衛さんなど日本人宇宙飛行士の活躍を目にしたことです。

今の研究に取り組み始めたのは大学の研究室に入ってからです。地球物理学科の先生は尊敬でき、きちんと指導してもらえそうだと、直感で研究室を決めました。この選択のおかげで今の私があります。

楽しさを追求しモチベーションを維持

オーケストラ部だったと伺いました。

中3の時の担任が音楽の先生で、合唱から音楽の楽しさに気づき、高校でオーケストラを始めて大学院まで続けました。研究室の運営や研究は人数が多くチームワークが大切で、オーケストラと共通点が多く、どちらも個性と協調の両立が大切です。

理科大には、好きなことを深く追求したいオタク気質の学生が多く、テーマを自分で見つけて決めたらそこからは自律的に研究を進めてくれます。そのため私にできることは、自分や先輩が研究室で楽しく実験やディスカッションする姿を見せて興味やモチベーションを高めることだと思っています。私たちの研究は、一生懸命取り組んでも人の役に立つかどうかは分かりませんがもしかしたら100年後に役立つかもしれない。だからこそ、自分がやりたいと思ったことを、純粹に楽しんであきらめずにやり続けてもらいたいです。

現在、ESA（欧州宇宙機関）の水衛星探査ミッション等で忙しく、なかなかオフはない状態ですが、3年前からピアノを始めました。私の両親が子どもにピアノをプレゼントしてくれたのですが、まだ興味を示さないため私が代わりに弾いています。アニメや漫画も好きで、子どもの隣でドラえもん映画を見て私の方が感動することもあり、子育てをしながら自分も楽しんでいます。

藤沢享乃（ジェイクリエイト）

【写真左】 ジャポニカ学習帳裏表紙に掲載された、惑星分光観測衛星「ひさき」と、「ひさき」による研究成果の論文の図
【写真中】 学生たちから誕生日にももらった、先生のSNS投稿文を書籍化した『つぶやき』と先生をアニメ化したポストカード
【写真右】 大学時代に参加していたオーケストラでピオラを演奏する先生（中央右寄りの白いシャツの男性）

